

ヴィヴィアン・プリジャン博士公開講演会・シンポジウム

2019年10月に立教大学国際学術交流招へい研究員としてヴィヴィアン・プリジャン博士が日本に招聘される。それに伴い立教大学・大阪市立大学において公開講演会・シンポジウムが開催される。

プリジャン博士は1971年生まれ。パリ第4大学のジャンニクロード・シェネ教授のもとで2006年に博士号を取得後、パリのフランス国立科学研究センター（CNRS）のビザンツ歴史・文明センターで専門研究員をつとめる。20016-19は在オックスフォード・フランス研究所（Maison française d'Oxford）の研究員。専門はビザンツ印章学ならびにビザンツ支配下の南イタリア史。主要編著に『イタリアにおけるビザンツの遺産』（*L'héritage byzantin en Italie (VIIIe-XIIIe siècle)*), 4 tom. Rome: Ecole française de Rome, 2012-17)がある。来日経験もある著名な詩人クリスティアン・プリジャンを父とし、日本文化にも造詣が深い。現在企画進行中の海外機関における日本古貨幣のカタログ（Ancient Japanese Coinage）作成に関するアドバイザーもつとめる予定である。

お問い合わせは小澤宛へ（m-ozawa@rikkyo.ac.jp）。

1) 公開シンポジウム「日仏ビザンツ学の史学史的アプローチ」(Symposium:

Historiographical Approach in Byzantine Studies: France and Japan)

日時：10月18日（金）18:30-20:30

会場：立教大学池袋キャンパス本館1103

プログラム：

報告者1：小澤実（立教大学）

「戦後日本のビザンツ研究と立教大学図書館所蔵ルメルル文庫」(The Paul Lemerle Library (Rikkyo) in Postwar Japanese Byzantine Studies)

報告者2：ヴィヴィアン・プリジャン（CNRS）

「聖母被昇天修道会の学問的研鑽とフランス・ビザンツ学の展開」(The Scientific Endeavors of the Assumptionists and the Development of French Byzantinology)

司会：小澤実

使用言語：英語

主催：立教大学文学部史学科

共催：科研費基盤（A）「前近代海域ヨーロッパ史の構築：河川・島嶼・海域ネットワークと政治権力の生成と展開」（課題番号19H00546）

2) 公開シンポジウム「中世ユーラシアの印章、サイン、印章学」(Symposium: Seals, Signature, and Sigillography in Medieval Eurasia)

日時：10月23日（水）18:30-20:30

会場：立教大学池袋キャンパス14号館D601

プログラム：

報告者1：ヴィヴィアン・プリジャン（CNRS）

「ビザンツ印章学への招待」(Byzantine Sigillography: An Introduction)

報告者 2：四日市康博（立教大学）

「モンゴル帝国の印璽」（Seals in the Mongol Empire）

報告者 3：佐藤雄基（立教大学）

「中世日本の印章と花押」（Seals and Kaō-Signatures in Medieval Japan）

司会：小澤実（立教大学）

使用言語：英語・日本語

主催：立教大学文学部史学科

共催：科研費基盤（B）「海域アジアにおける港市および港市国家の基礎的研究：広域的・多角的な視座から」（課題番号 19H01299）

3) ヴィヴィアン・プリジャン博士公開講演会@東京

日時：10月24日（木）18:30-20:00

会場：立教大学池袋キャンパス 12号館第1会議室

講演タイトル：「辺境管区を統治する：ビザンツ期シチリアの場合」（Governing A Peripheral Province: The Case of Byzantine Sicily）

使用言語：英語

主催：立教大学文学部史学科

共催：科研費基盤（B）「西洋中世における境界地域の統治システムに関する比較史的研究」（課題番号 19H01328）

4) ヴィヴィアン・プリジャン博士公開講演会@大阪

日時：10月28日（月）15:30-18:00

会場：大阪市立大学杉本キャンパス文学研究科棟 122

講演タイトル：「鉛から金をつくる：ビザンツ印章学とビザンツ帝国社会史」（Making Gold from Lead: Byzantine Sigillography and the Social History of the Byzantine Empire）

コメント 1：村田光司（名古屋大学）「ビザンツ印章の読解について」

コメント 2：磐下徹（大阪市立大学）「日本古代史研究における出土文字資料—木簡を中心に—」

司会：草生久嗣（大阪市立大学）

使用言語：英語・日本語

主催：大阪市立大学文学研究科ビザンツ研究連絡会

共催：科研費基盤（B）「西洋中世における境界地域の統治システムに関する比較史的研究」（課題番号 19H01328）

お問い合わせは草生宛へ（kusabu@lit.osaka-cu.ac.jp）